

NPOにおける行政との協働とアドボカシー

——兵庫県 NPO 調査のデータ分析 (2) ——

同志社大学 猿渡壮

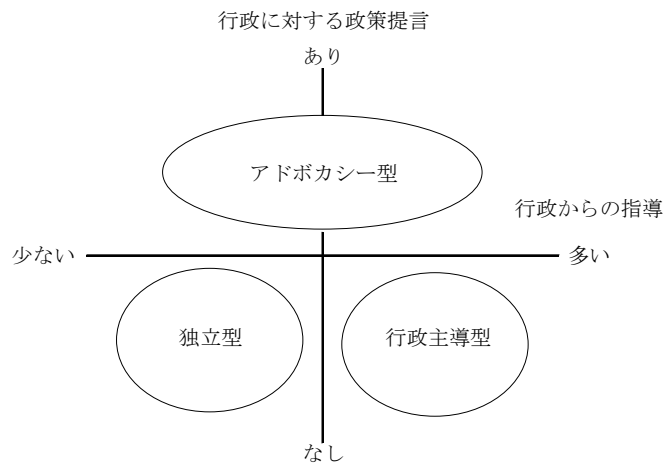
1 研究の目的

近年、NPO と行政との協働に関する議論が盛んになされているが、こうした議論の 1 つに、NPO の下請け化やそれにとまなうアドボカシー機能の低下に関するものがある。これは、「事業受託などの形で行政と結びつくことにより NPO が行政の下請けとなり、本来果たすべきアドボカシー機能（政策提言機能）を果たしにくくなるのではないか」といった議論である。

こうした議論は「NPO はいかにあるべきか」という規範的な文脈でなされることが多く、「実際にアドボカシーを行っているのはどのような組織なのか?」「行政との協働は本当にアドボカシーを阻害するのか?」といったことについて、データに基づく経験的な検討がなされることは少ない。本研究の目的は、兵庫県の NPO 法人を対象とした組織調査データを用いて、上記の問題について分析を行うことである。

2 分析枠組み

本研究では、「行政に対する政策提言や意見書の提出」および「行政からの指導や助言に従った事業運営」の 2 変数をもとに、NPO の類型化を行う。作成された類型は、事業運営にあたって行政からの指導を受けることが少なく行政への政策提言も行っていない「独立型」、行政からの指導は受けるが行政への政策提言は行っていない「行政主導型」、行政に対する政策提言を行っている「アドボカシー型」の 3 つである。分析では、どのような要因がこうした NPO 類型の違いを生むのかが検討される。



3 分析結果

主な分析結果は以下の通りである。

まず、独立型と他の 2 類型を比較した分析からは、(1) 教育や文化に関わる NPO は独立型になりやすいこと、(2) 収入規模が小さい NPO は独立型になりやすく、収入規模の大きい NPO は行政主導型・アドボカシー型になりやすいこと、(3) 行政からの受託事業がなく、行政との協働関係が弱い NPO は独立型になりやすいことが明らかにされた。

続いて、行政主導型とアドボカシー型を比較した分析からは、(1) 福祉分野の NPO は行政主導型になりやすく、地域分野の NPO はアドボカシー型になりやすいこと、(2) 収入規模、受託事業の有無、行政との協働関係の強さは、行政主導型かアドボカシー型かの違いにさほど影響しないこと、(3) 行政以外の組織と幅広い協働関係を築いている NPO ほどアドボカシー型になりやすく、そうでない NPO ほど行政主導型になりやすいことが明らかにされた。

以上の分析結果を踏まえ、報告では、受託事業や行政との協働は必ずしもアドボカシーにとってマイナスではなく、幅広い組織間ネットワークがアドボカシーを可能にする重要な要因であることが議論される。